

第1部

1. ウクライナ避難者をめぐる全体概況報告

Оглядовий звіт про українських біженців

: YMCAウクライナ避難者アンケート調査結果を踏まえて

Результати масштабного анкетування українських евакуйованих

日本YMCA同盟 : 横山 由利亚

The National Council of YMCAs of Japan: Yuria YOKOYAMA

YMCAウクライナ避難者支援活動

ウクライナ避難民: 現在の在留者数 1982名 (総来日者数 2747名)

ウクライナ出国から日本入国・生活開始にかかわる支援

78件 / 166名 (2025年2月1日現在)

来日後の生活相談・交流会参加、日本語クラスなど

1,746名 (上記166名含む)

東京都との協働

ウクライナ大使館との協働



マッチング内容	件数
物資	238件
日本語	241件
就業	266件
手続き	340件
財政	132件
教育	205件
医療・メンタル	198件
生活・やりがい	145件
その他	128件
合計	1893件



横浜YMCA 横浜市

在日本ウクライナ人コミュニティとの連携

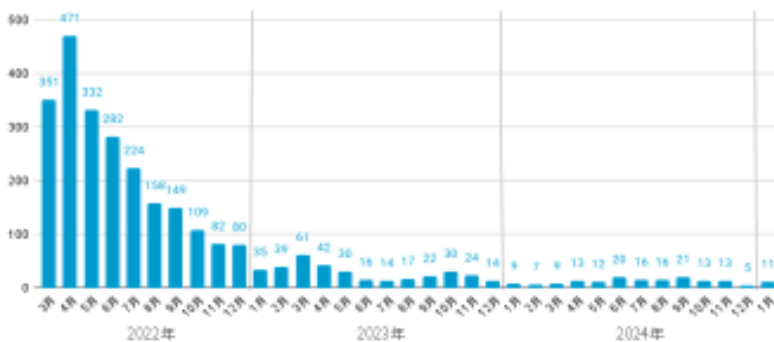


出入国在留管理庁のサイト内データより作成

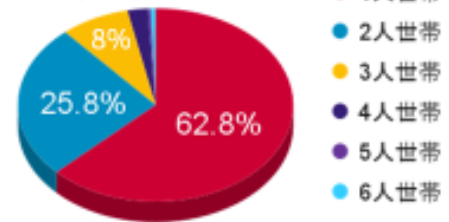
2022年3月以降

日本に避難してきたウクライナ人（2025年2月22日現在）

月別のウクライナ避難民入国者数



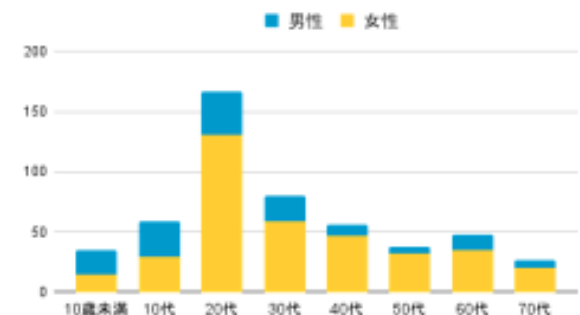
都営住宅に住むウクライナ避難民
世帯人数別構成



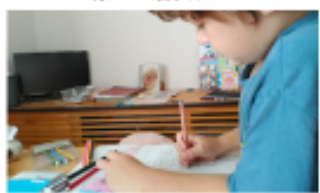
都道府県別ウクライナ避難民在留者数

	東京都	神奈川県	大阪府	愛知県
在留者数 (全在留者数に占める割合)	626 (31.6%)	165 (8.3%)	141 (7.1%)	121 (6.1%)

都営住宅入居時の年代と性別（2025年2月）



避難者支援活動の変化

	第1フェーズ	第2フェーズ	第3フェーズ
時期	2022年3月～	2022年5月～	2022年7月～
形態	来日避難・緊急支援 命の危険回避・渡航支援	生活スタート支援 住居・住民登録・ネットワーキング	生活個別支援 教育・就労・心のケア
概要	ヨーロッパYMCAと連携し、ウクライナからの出国から来日までの支援、空港出迎えや国内移動の補助、ホテルでの隔離、住宅への案内などという一連の支援を継続する。 5月がピークとなったが、戦禍激化を受け現在でも来日避難の相談は続き、一つ一つ対応し、来日を支援している。 	住居手配から保育園探し、日本語学習の機会提供など日本での生活をスタートするための支援を展開。交流・学びの場、居場所として「Ukraine Café HIMAWARI」をオープンし、物資支援、猛暑対策などを伝える生活講座や無料バザーなどを実施。ウクライナ語で読める児童書を集めた図書館の開設と運営を開始した。 	都営住宅などへ個別訪問を実施し、ヒアリングによるニーズ把握と支援策とのマッチング支援を展開（現在も継続）。 「キャリア相談」「ハローワーク・病院同行」「子どもの宿題サポート」等、各家庭の個別支援から、体調不良につながる心のケアの取り組みなど、多様な支援活動を行う。 

避難者支援活動の変化

	第4フェーズ	第5フェーズ	2023年12月 「補完的保護対象者認定制度」開始	準難民制度：ウクライナ避難民などを難民に準じて保護
時期	2023年1月～	2024年1月～		
形態	中長期 滞在定住 支援 人生設計に関わる相談	長期滞在・定住伴走 支援 定住か、帰国か		
概要	22年秋から大規模な攻撃によって中長期化を覚悟せざるを得ない状況。就業、子どもの教育、本国の家族との関係など人生設計に関わる相談事項が増える。罪悪感や将来への不安と向き合いながら、日々の生活、日本のコミュニティとの橋渡しなど多岐にわたる対応。 	3年目を迎える時期になり、2023年12月より最長で5年の定住ビザ（査証）取得を可能とする制度が始まった。日本での進学や就職を含めた長期滞在を視野に入れる避難者が増えてきたことでYMCAの支援活動もより個別具体的な伴走支援を継続していく。 		

最近の避難民の傾向（2025年2月）

◆「母子・高齢者」中心から 「単身者」へ

- 徴兵を目前に控えた16～17歳男性
- 20～30代の女性

◆ 障がい者

地方から
都心へ

◆ 家族の呼び寄せ

適応格差も

一時受入れの
留学が終わり、
これから・・・

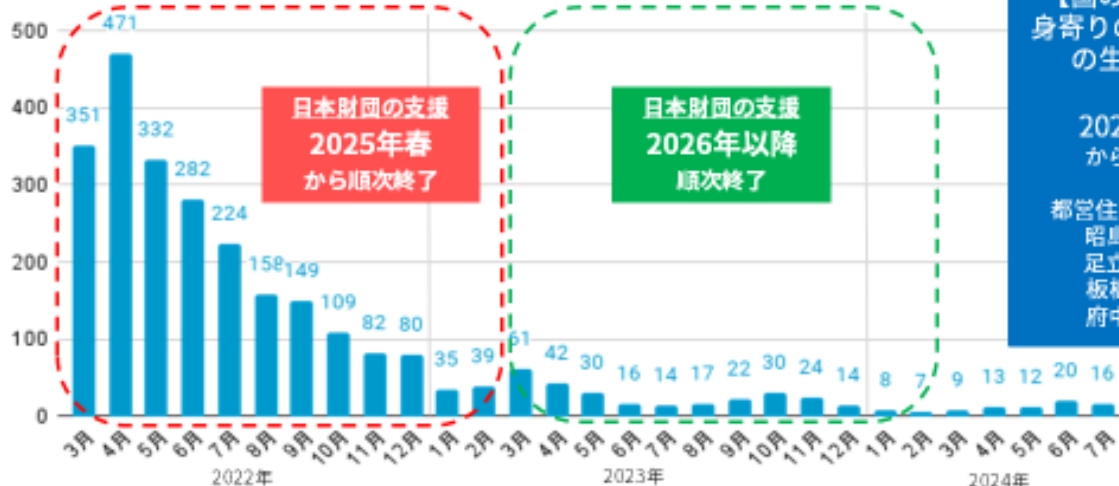
◆ 公的財政支援の最終年を迎えて

帰国か定住か・・・



2024年3月以降 各種財政支援終了 (ピーク2025年春)

月別のウクライナ避難民入国者数

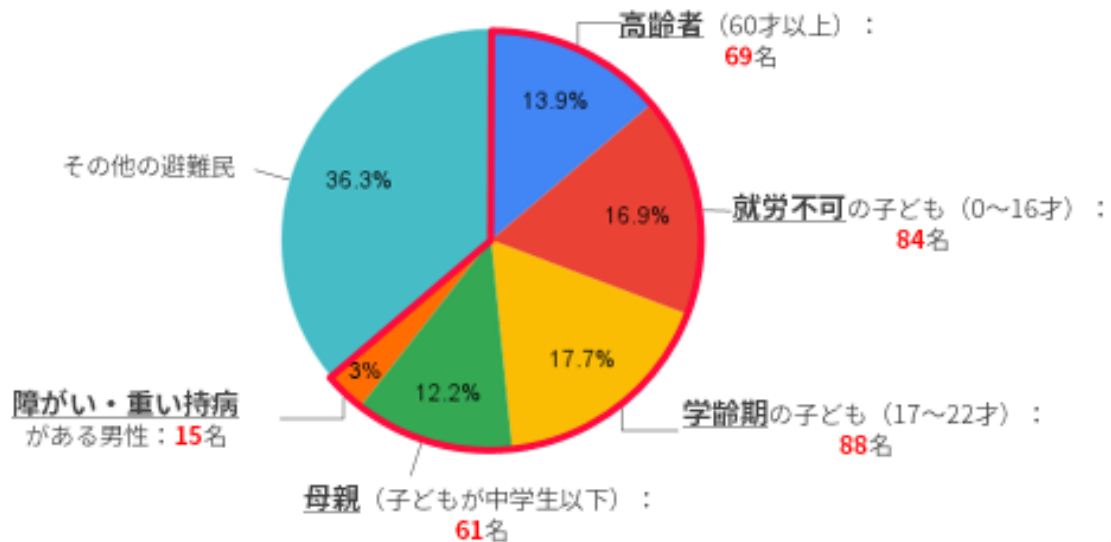


【国の受け入れた
身寄りのない避難民
の生活支援】

2024年 4 月
から順次終了

都営住宅在住27名：
昭島市 11名
足立区 11名
板橋区 2名
府中市 3名

持続的な就労が困難な世帯



2024年度 重点支援対象

持続的な就労が困難な世帯

- I. 中学生までの子どものいる世帯
- II. 高齢者の世帯
- III. 一人で来日した若者の単身世帯

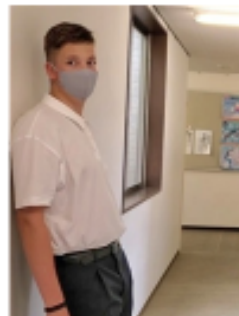
【調査I】 「中学生までの子どもがいる世帯」の現状と課題



自立への道筋：キーポイント

地元で母親をどう支えるか

- (1) 就労や日本語習得に遅れ
 - (2) 子どもがWスクール
 - (3) 子どもの教育・進学への不安
 - (4) いまの居住地の生活継続を希望
- 日本語教育機関へのつなぎ、子育てと両立可能な就労環境とキャリア形成
- 就学・進学の細やかなサポート



【調査II】 「高齢者の世帯」の現状と課題



自立への道筋：キーポイント

- (1) 健康状態への不安
 - (2) 地域の福祉サービス等の情報を把握できていない
 - (3) 日本語ができず、孤立の恐れ
- 受け入れ家族への情報提供
- 定期健診・居場所づくり・住民交流・楽しい日本語



自立への道筋：キーポイント

日本文化への憧れが原動力

- (1) 社会経験・ロールモデル・相談相手が不足
- (2) 経済的な自立に向けた具体の将来設計が不十分
- (3) 孤立感、メンタルヘルス

- 就学や就労支援に関する相談窓口、日本の友人づくり
- スポーツや野外などの心身形成の機会



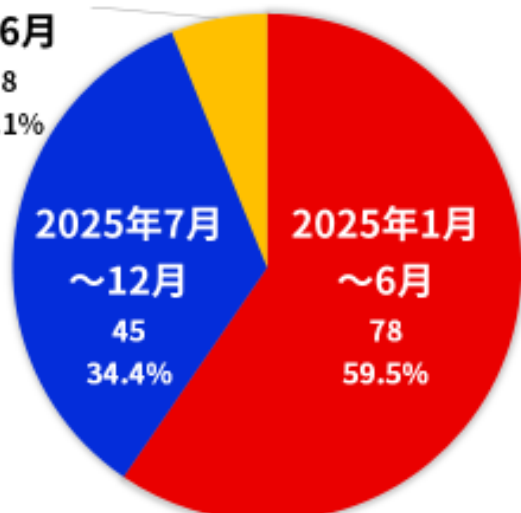
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

q. 生活費の支援はいつ終了しますか？

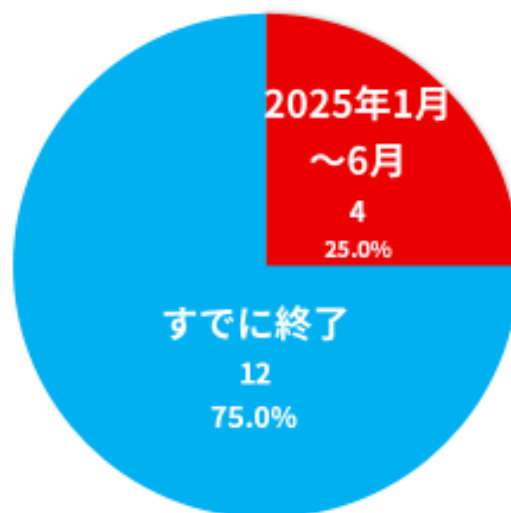
【日本財団】
(3年間)

2026年1月

～6月
8
6.1%



【日本政府】
(2年間)

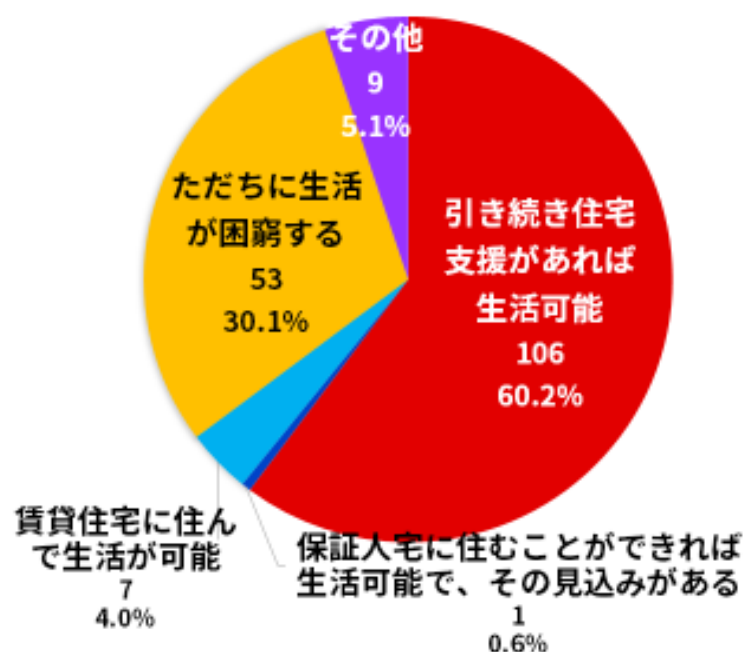


2025年1月実施の避難者アンケート結果より



みつかる。つながる。よくなっていく。

Q. 生活費支援終了後の生活は？



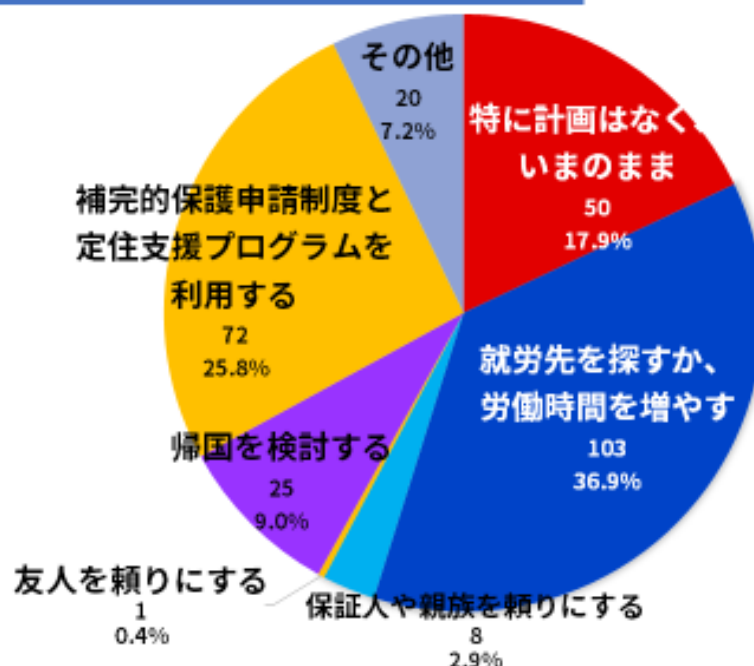
	人数	%
ただちに生活が困窮する	53	30.1
保証人宅に住むことができれば生活可能	1	0.6
引き続き住宅支援があれば生活可能	106	60.2
賃貸住宅に住んで生活が可能	7	4.0
その他	9	5.1
計	176	100

2025年1月実施の避難者アンケート結果より



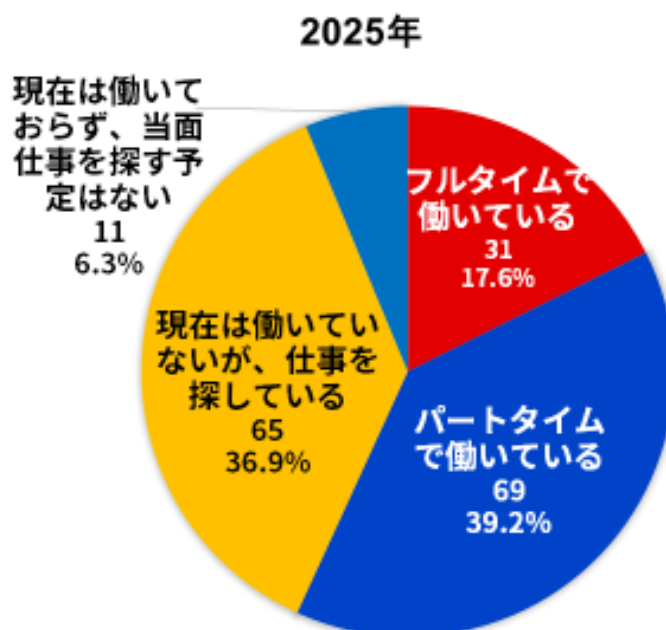
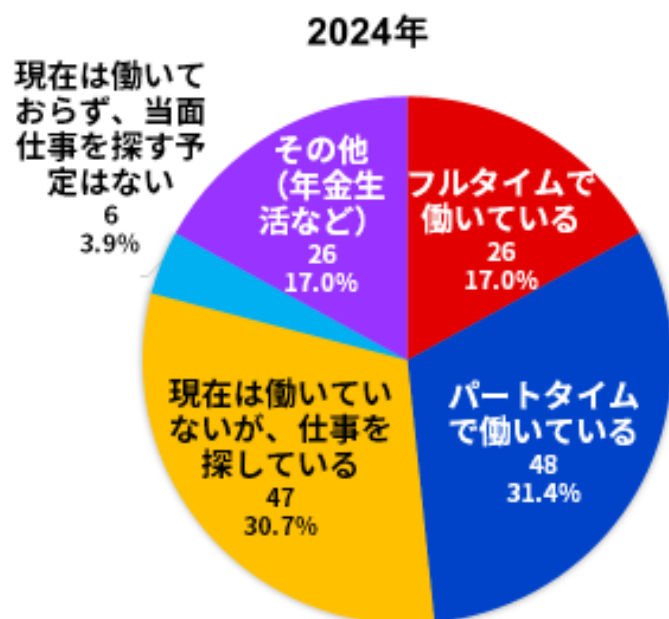
みつかる。つながる。よくなっていく。

Q. 生活費の支援終了にあたって現在の計画は？



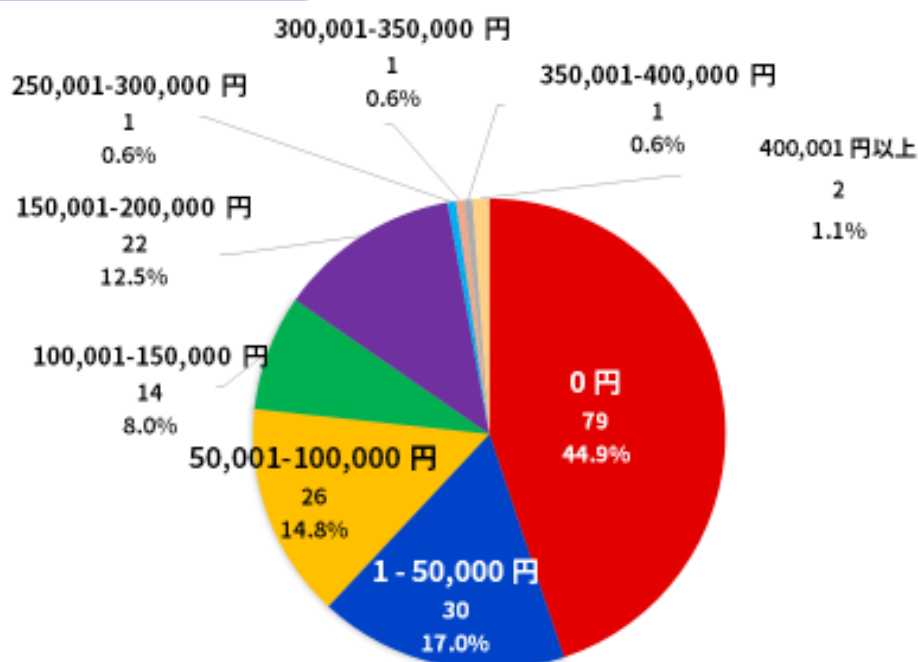
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q. 現在の就労状況を教えてください



2025年1月実施の避難者アンケート結果より

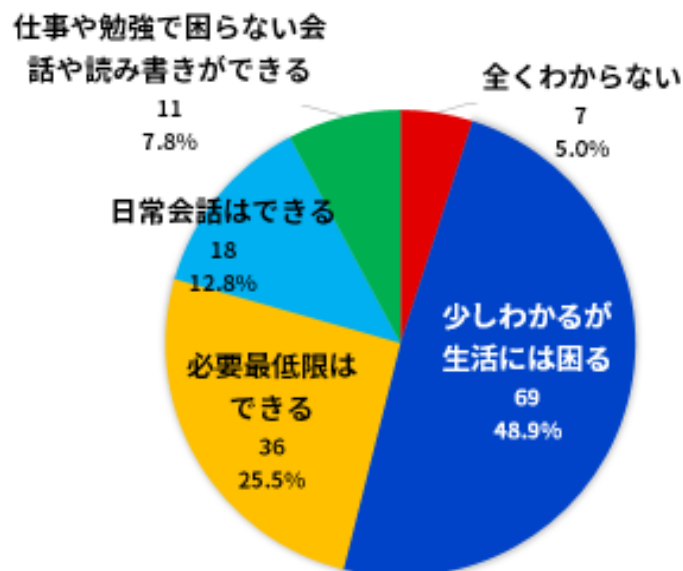
Q. 得ている給与を教えてください



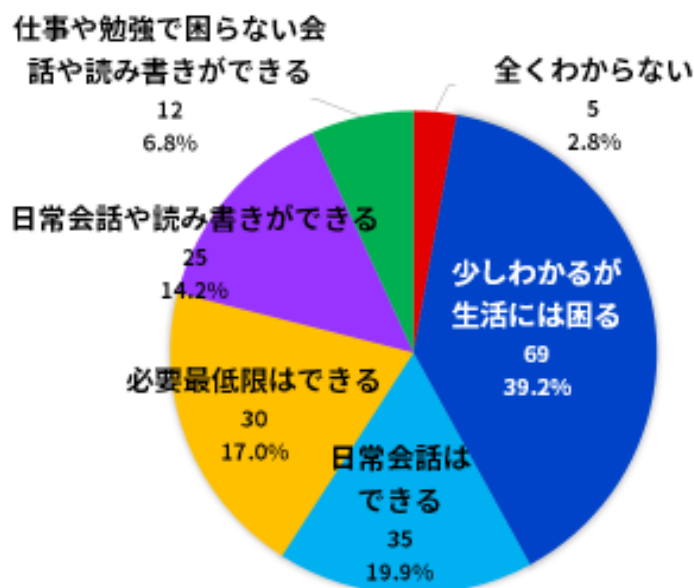
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.日本語レベルを教えてください

2024年

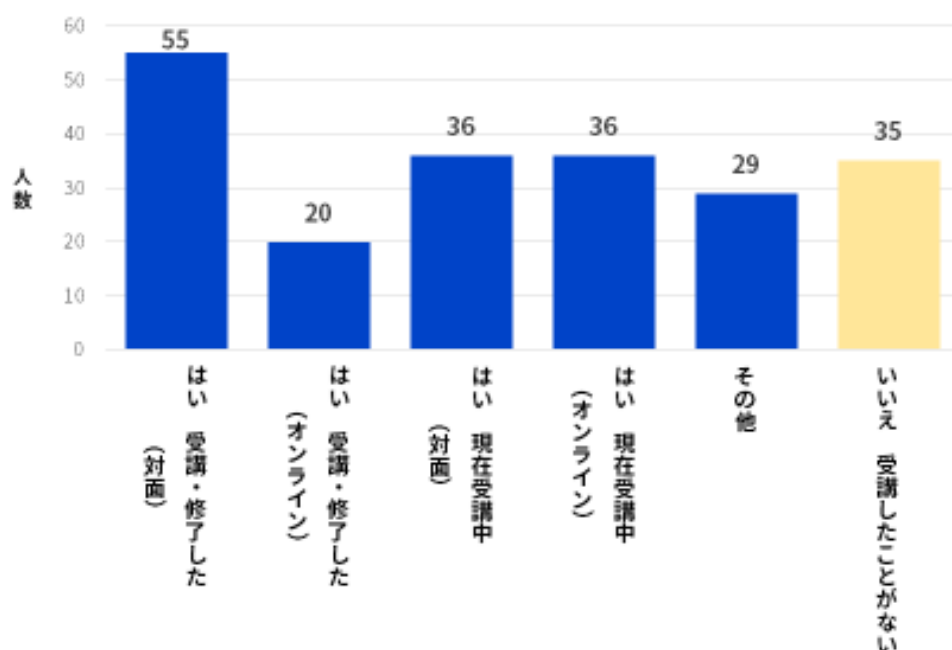


2025年



2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.日本語クラスを受講しましたか？

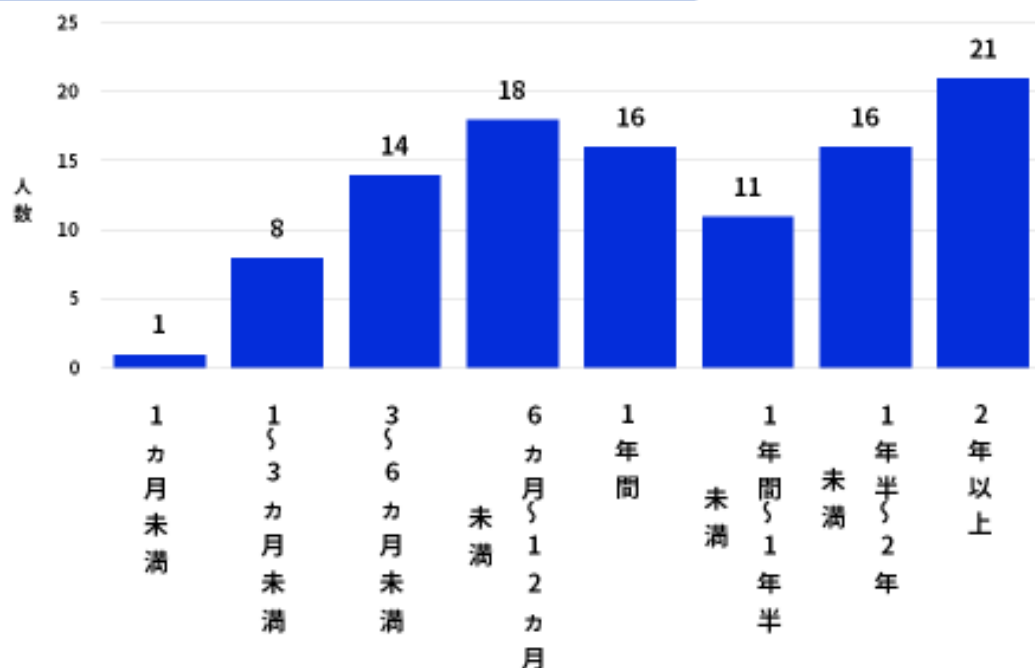


2025年1月実施の避難者アンケート結果より



みつける。つながる。よくなっていく。

Q.どのぐらいの期間、日本語を学びましたか？

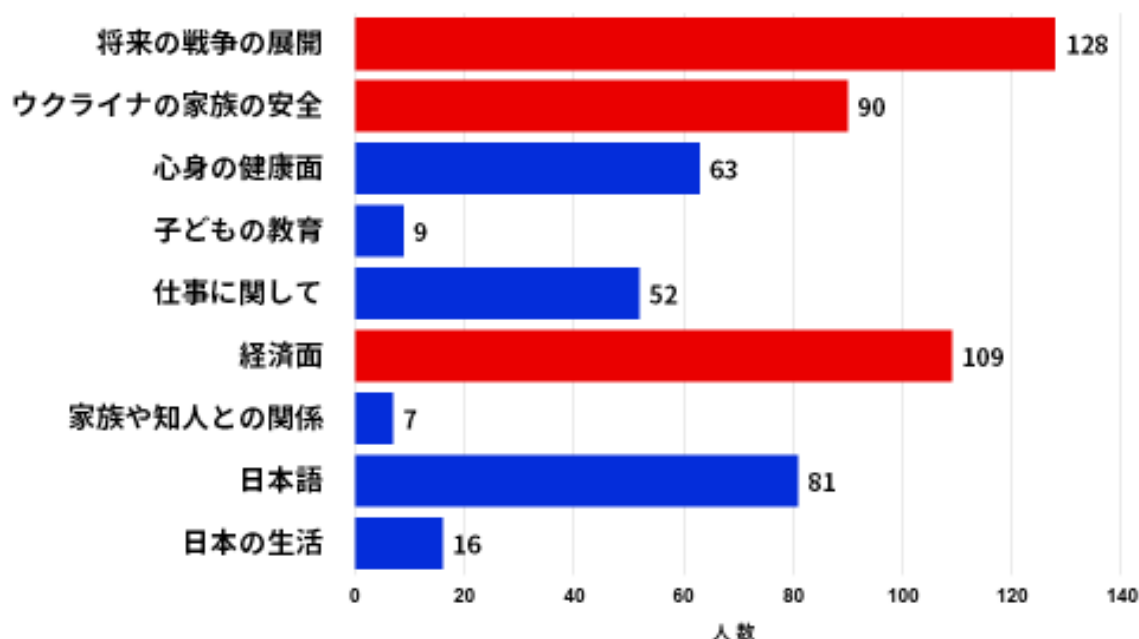


2025年1月実施の避難者アンケート結果より



みつける。つながる。よくなっていく。

Q.今、日本の生活で困っている点・不安な点は何ですか？



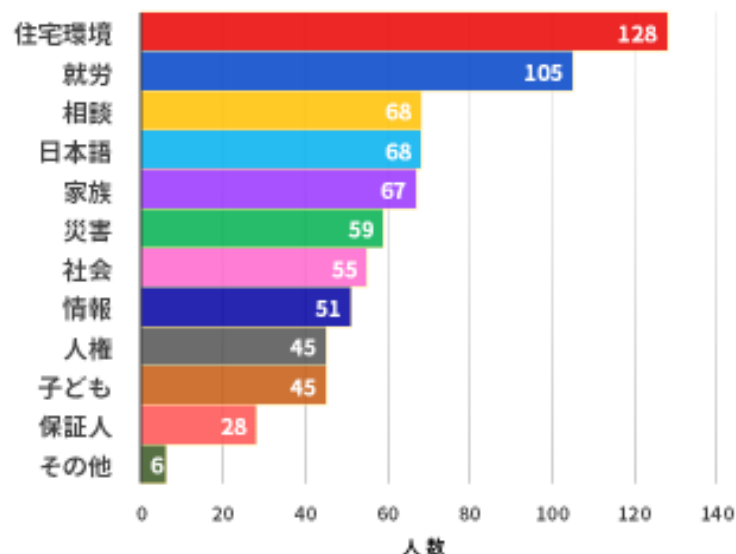
2025年1月実施の避難者アンケート結果より



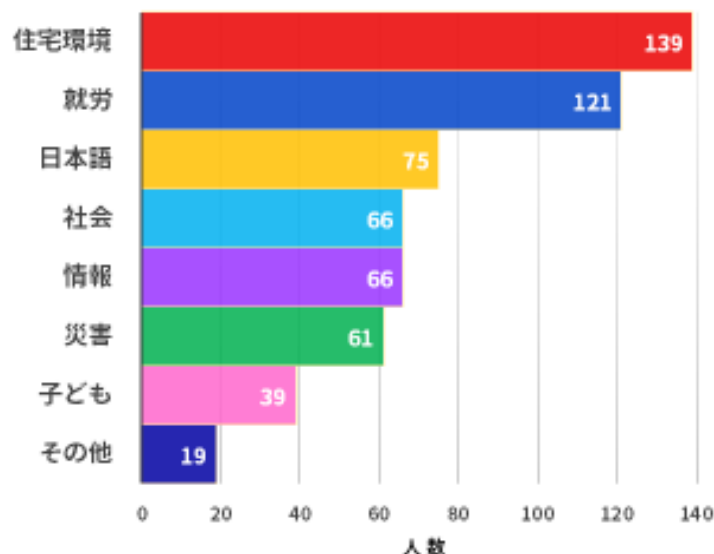
みつける。つながる。よくなっていく。

Q. 経済的な支援等が縮小や終了する場合、特に不安なことは何ですか？

2024年



2025年



2025年1月実施の避難者アンケート結果より



みつける。つながる。よくなっていく。

Q. 特に不安な事は何ですか？ (3択)

2024年

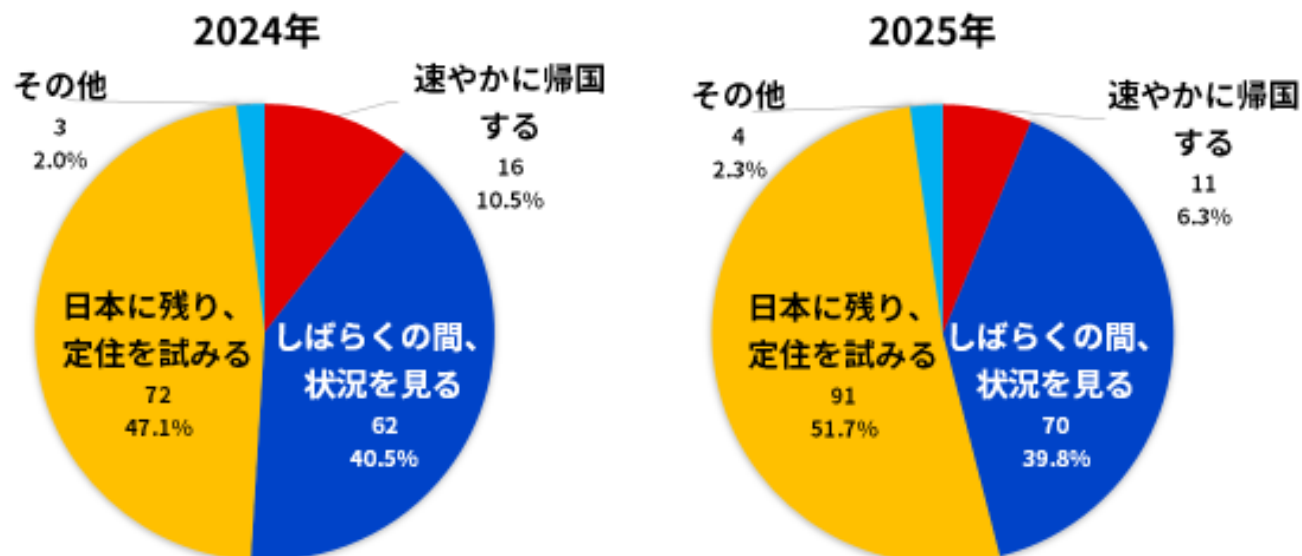
最も不安な事 TOP3		
1	民間住宅に移って家賃を払えるか？	116人 (75%)
2	仕事について安定した収入が得られるか？	102人 (66%)
3	ウクライナの家族とのコミュニケーションはとれるか？	41人 (26%)

2025年

最も不安な事 TOP3		
1	民間住宅に移って家賃を払えるか？	145人 (82%)
2	仕事について安定した収入が得られるか？	119人 (68%)
3	日本語学習を継続できるか、その費用が負担できるか？	56人 (32%)

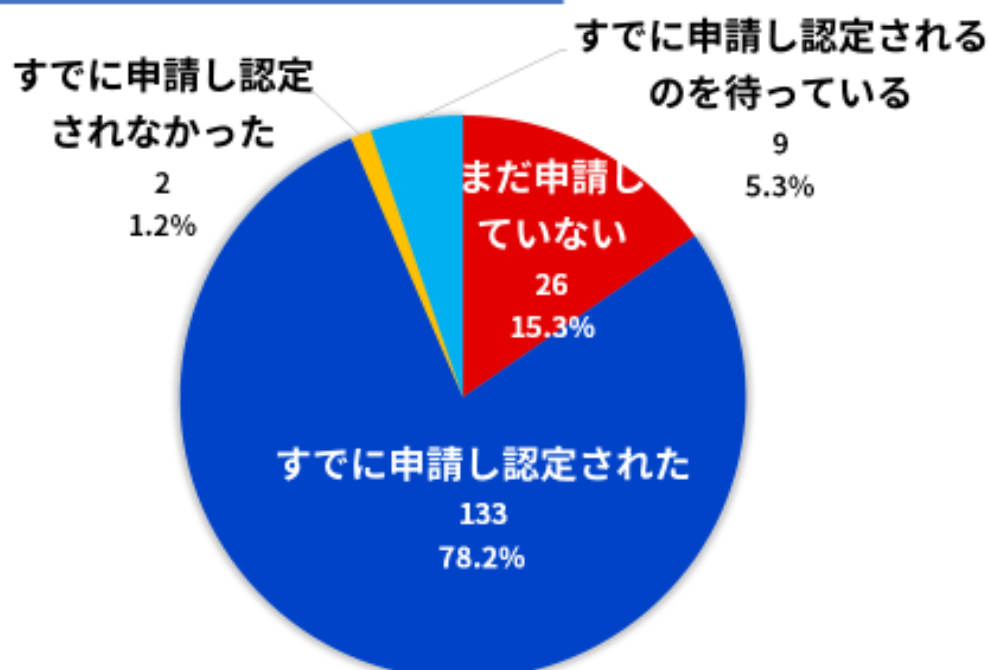
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.戦争が終了（停戦・休戦）した場合、
どのような選択を希望しますか？



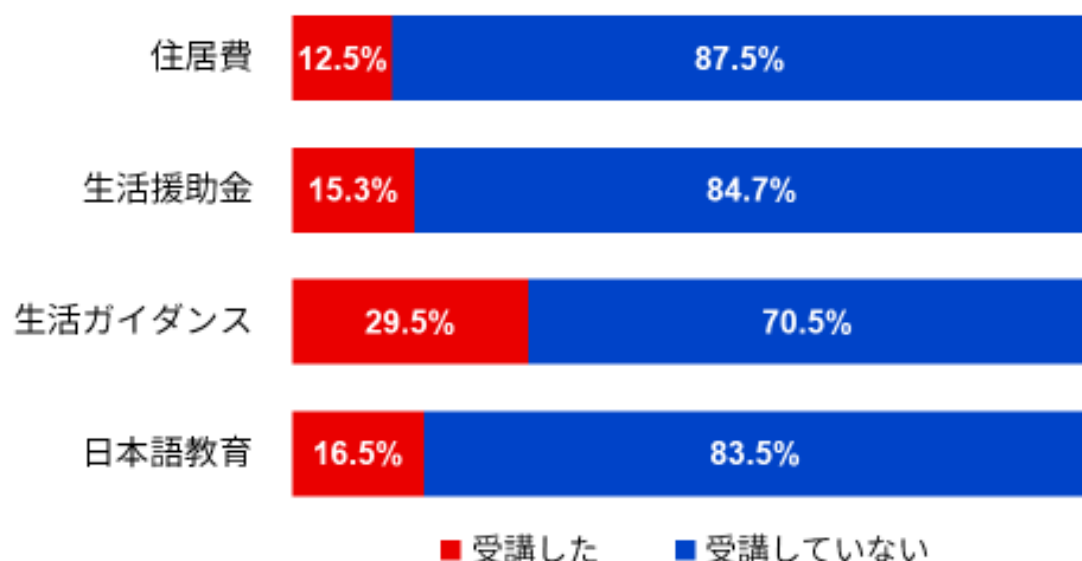
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.補完的保護対象者認定に申請しましたか？



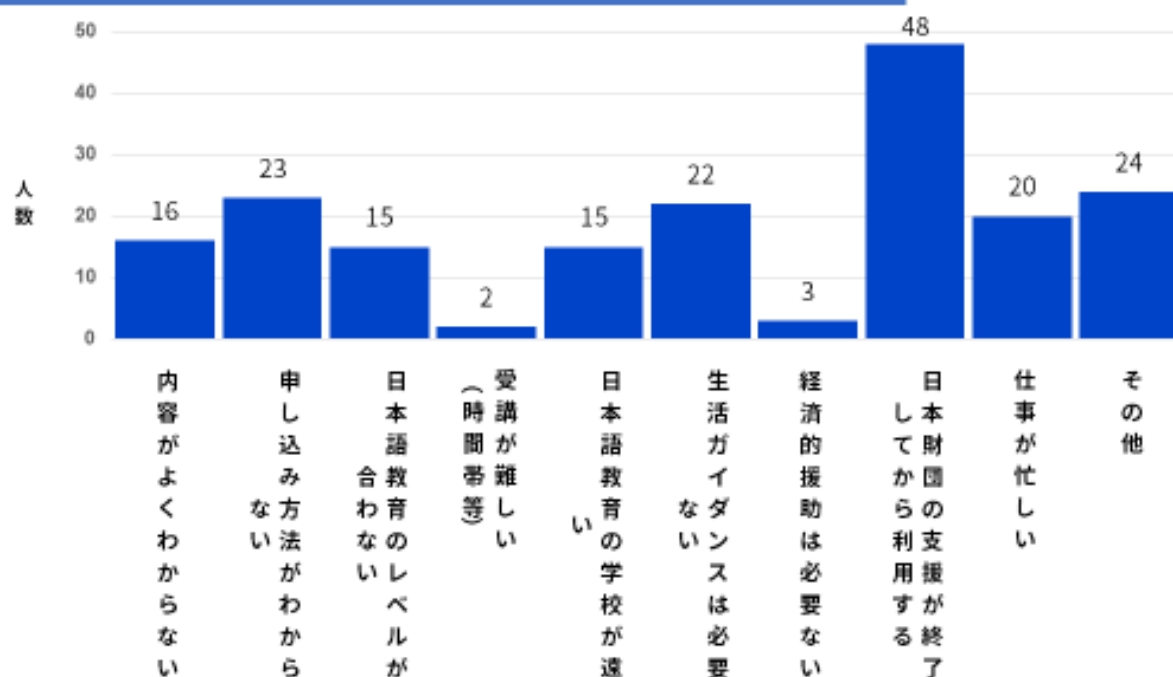
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

q.定住支援プログラムを受講しましたか？



2025年1月実施の避難者アンケート結果より

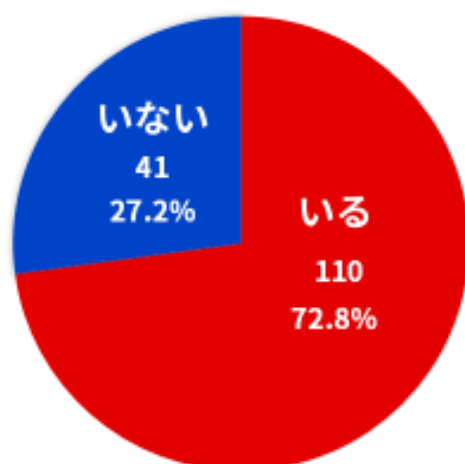
q.定住支援プログラムを受講しない理由は何ですか？



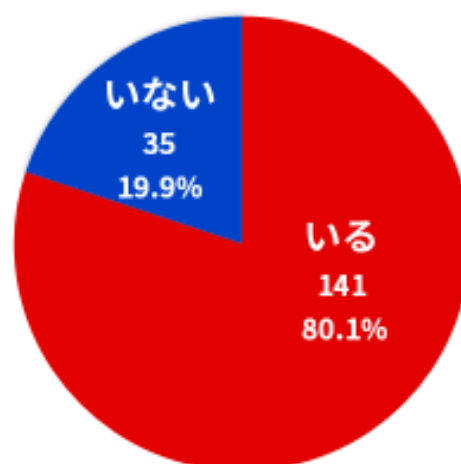
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.日本人の友人や知り合いはいますか？

2024年

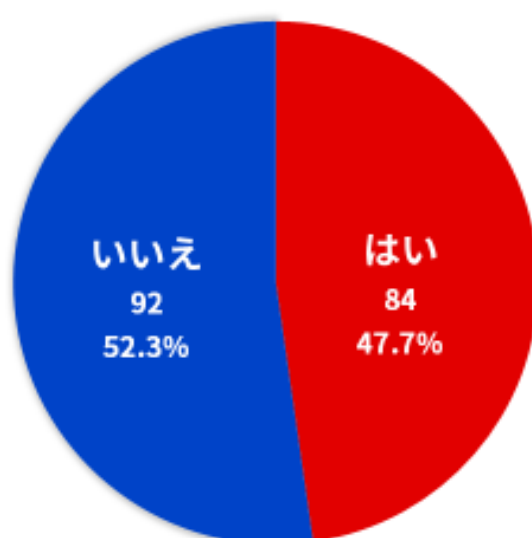


2025年



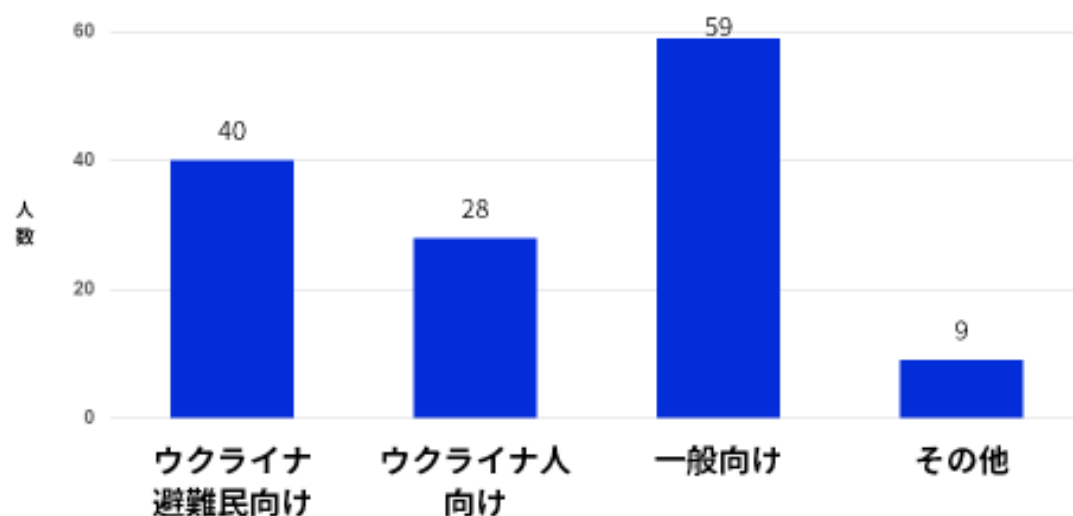
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.参加している文化交流、趣味・スポーツのコミュニティ はありますか？



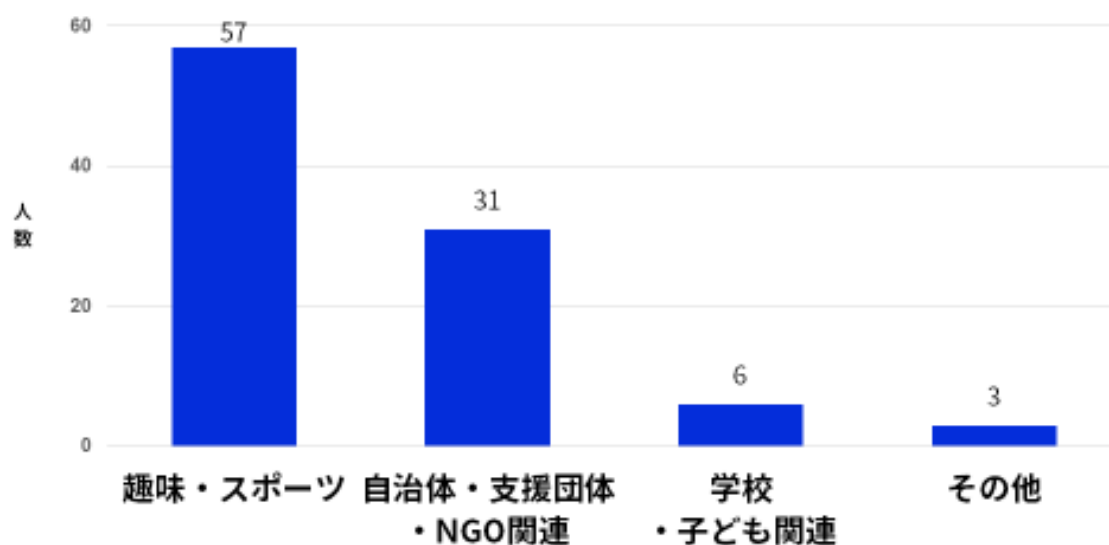
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.参加している方：どのような人向けのコミュニティですか？



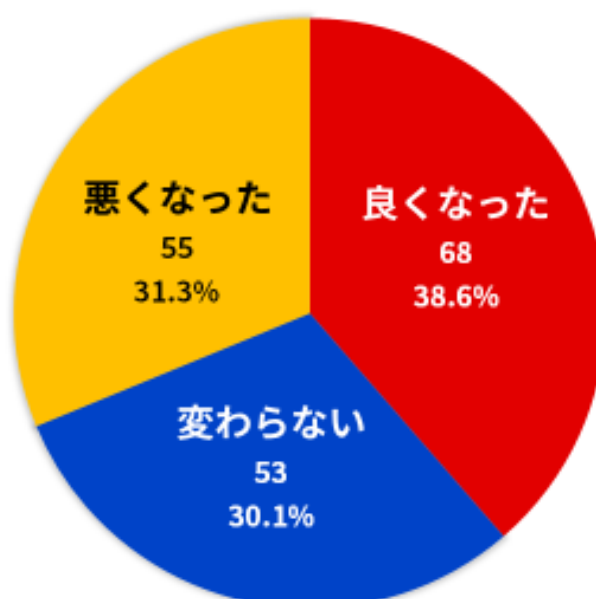
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.参加している方：何についてのコミュニティですか？



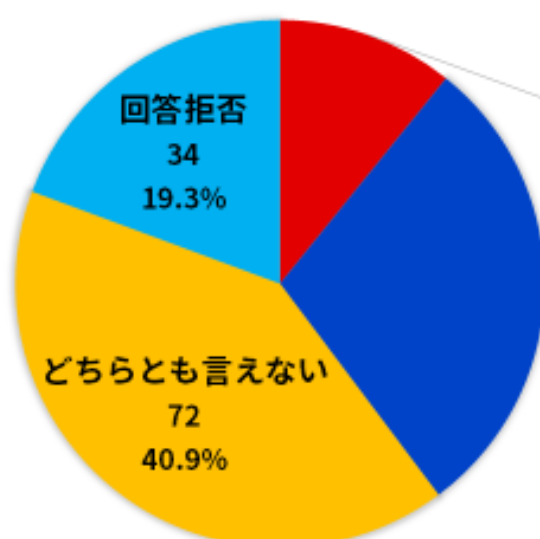
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.来日時と比べて**現在の健康状態**はどうですか？



2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q. ロシアとの妥協案としてどれに最も同意しますか？

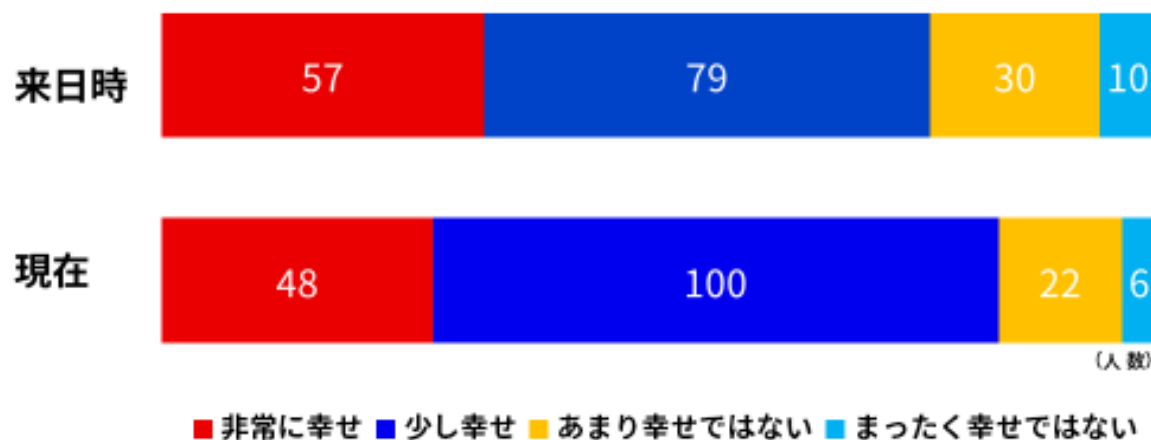


できるだけ早く平和を達成し独立を維持するため、ウクライナは領土の一部を放棄してもよい
19
10.8%

ウクライナはいかなる状況下でも領土を放棄してはならない。たとえそれによって戦争が長引き、独立の維持が脅かされることになっても。
51
29.0%

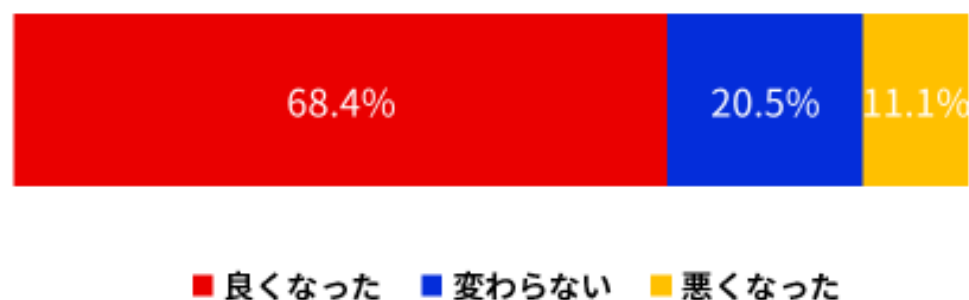
2025年1月実施の避難者アンケート結果より

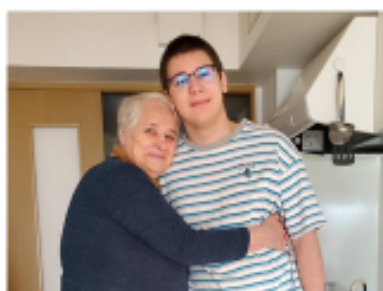
Q. あなたは**幸せ**ですか？



2025年1月実施の避難者アンケート結果より

Q. 来日直後と現在で**幸福度**は変わりましたか？





みつかる。つながる。よくなっていく。



みつかる。つながる。よくなっていく。

無断転載厳禁

内容についてご質問その他は以下までお問い合わせください。

公益財団法人日本YMCA同盟 担当：横山・石橋・リー

160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2-11

TEL03-5367-6640 e-mail ua@japanymca.org